

北九州市立河内自転車貸出し施設

指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月25日（木） 13:30~15:00
- 2 場 所 北九州市役所（小倉北区城内1番1号）12階 121会議室
- 3 出席者（検討会構成員）南構成員(座長)、寺町構成員、梅田構成員、植田構成員（事務局）建設局道路部道路維持課長、自転車道担当係長、職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 応募団体（特定非営利活動法人 I-DO）より提案内容に関してヒアリング

（構成員） サイクリストの休憩ポイントやバーベキュー、カフェなどの提案について、具体的に説明していただきたい。

（応募団体） 現在は親子連れの方だけが利用している状況だが、八幡から合馬に抜けていくサイクリストのために、リペアや洗車、休憩ができるような、スポーツタイプの自転車に乗る方にも対応できる施設にしたい。それに加えて、楽しみを創出するためにバーベキューデリバリーの仲介や、自作フォトスポットの設置を行いたいと考えている。

（構成員） バーベキューなどを行うことで、管理人の業務に支障とならないか。

（応募団体） 多少はあるかもしれないが、他都市の公園で行っている事例もあり、予約数を制限するなどして対応したい。

（構成員） 新たな施設の整備は必要ないのか。

（応募団体） 既に設置されているパーゴラやテーブル、ベンチの活用を考えており、初期投資は必要ない。

（構成員） これらは自主事業となるのか。

（応募団体） 自主事業はタンDEM自転車などの新たな車両の導入を考えている。

（構成員） 自主事業による収入項目の内訳には自動販売機の設置しかないが、これらはどうなるのか。

（応募団体） 自動販売機での収入と合わせて、新たな自転車貸出し料の収入でも補うように考えている。バーベキューについては仲介のみのため、収入は見込んでいない。

（構成員） 地域の住民との連携とあるが、河内地区での実績はないように感じるが。

（応募団体） 日頃の活動で連携している大学生と協力し、地元の方とイベントを開催するなどして地域住民との連携を図っていきたい。

（構成員） 利用台数の目標が高いように感じるが、どのようなことを行くと、この目標が達成できると考えているか。

- (応募団体) 当団体が指定管理を行っている類似施設の交通公園では、イベントを行うことで周知が広がり、過去最高の集客につなげた実績がある。当施設についても同様にイベントを通じた周知活動と合わせて、新たな自転車の導入でリピーターを確保していきたい。
- (構成員) 大学生との協力という話が出た。河内は距離も遠いため学生が参加しづらいと思うが、何かアイデアなどはあるのか。
- (応募団体) 以前、サイクルツアーという自転車で市内を巡るイベントを5年ほど開催し、当施設をエイドステーションとして利用していた。当時もボランティアとして大学生に声をかけたところ、多くの人に来てくれたという実績があるため、そのネットワークを活かしつつ広げていきたいと考えている。
- (構成員) 都市部での実績は多くあるが、今回の施設は山間部であり状況が異なる。こうした場所で事業を展開していくにあたり、懸念事項や工夫したいと考えていることがあれば教えていただきたい。
- (応募団体) 現在市のHPであるスマキタ（スマートサイクルライフ北九州）などでコース紹介をしているが、コースまでは車で行き、そこで自転車に乗るという想定になっている。これらのコースをサイクルツーリズムとして位置付けることで、そこまでも自転車で行くようになり、コースの認知とともに施設も知られていくと考えている。
- (構成員) そうした考えと今回の自主事業で提案しているチャイルドシート付き自転車やタンデム自転車は矛盾しているように感じるが、なぜ初期投資をしてまで投入するのか。また、コース内には狭く見通しの悪い場所もあるが、安全性をどう考えているのか。
- (応募団体) チャイルドシート付き自転車やタンデム自転車は、最近の法改正により公道を走ることができるようになったことから、一般道での走行を想定している。人気のあるタンデム自転車等を導入することで施設の人気が出て、一般の施設利用者が増加すると考えている。
- (構成員) 収支計画書を見ると、その他経費の割合が高いように感じるがこの内訳を教えていただきたい。
- (応募団体) これは実績から算出したもので、項目を積上げたものではない。
- (構成員) 対応マニュアルはこれから作成するのか。
- (応募団体) 既存のマニュアルをこの施設にあわせて改訂する。
- (構成員) 人員の確保については、新たに採用する予定なのか。
- (応募団体) 今現在勤めている方が希望すれば、スキルを持っていることから、最優先に雇用したい。あとは当団体の職員の配置転換や新規の採用も考えている。
- (構成員) 新規利用者を獲得するための広報活動などは考えているか。
- (応募団体) まずはスマキタなど市と協力して取り組んでいけるところで行い、合わせてサイクリングマップの作成、市政だよりへの掲載などを行いたい。
- (構成員) そうした印刷物等の費用は特に内訳で計上されていないが。
- (応募団体) 経費の中でできると考えている。

- 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。
- 応募団体（公益社団法人 北九州市シルバー人材センター）より提案概要に関してヒアリング

（構成員） 平成26年度以降、利用者は減少傾向だが、これをどう分析し、今後どのように活かそうと考えているか。

（応募団体） 平成28年度は6月と9月の18営業日の内、10日が雨であり、さらにその内1日は台風により休業とした。土日いずれかに台風がくると、そのもう一方も利用者が少ないという状況がある。平成29年度についても同様で、7月から9月で雨の日が15日、台風による休業が5日あった。このように天候の影響を受けやすい施設のため、利用者が減少したと考えられる。

平成31年度以降も自然状況については予測不可能ではあるが、台風通過後のサイクリングロードの早期復旧や、利用者への丁寧な対応を心がけ、利用者増加に向けて取組んでいきたい。

（構成員） 利用者の満足度が90%を越え、非常に高いとは思いますが、残りの10%の方はどのような点を不満に思っていると考えているか。

（応募団体） 管理人は丁寧な対応を心がけており、自転車についても入念に点検を行っている。しかし、サイクリングのみの施設であるため、ファミリー向けにはどうしても物足りないところがあることと、清掃は行っているが、施設の老朽化などが原因となっているのではないかと考えている。

（構成員） それらを受けて、どのような工夫を考えているか。

（応募団体） 施設の老朽化は進んでいるが、黄色いのぼりを設置し、明るいイメージを持ってもらえるようにしたい。

（構成員） のぼりは現地まで来た人に向けたPRだと思うが、それ以外の人へのPRは新たにどのようなものと考えているか。

（応募団体） 今まではファミリー向けの事業が多かったが、これからは健康マイレージ事業などの高齢者向けの健康づくりに関するものも取り入れていきたい。

（構成員） 利用台数の数値目標を達成するために、どのような点を重視しているか。

（応募団体） ファミリー向けだけでなく、高齢者に向けた取り組みも行っていきたい。

（構成員） 経費削減のため、管理人の従事時間を1日30分削減するとあるが、サービスの低下にはつながらないか。

（応募団体） 営業時間前後の準備時間を効率化して削減するため、サービス低下にはつながらないと考えている。

- 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

- 構成員は、両団体の提案内容について意見交換。

（構成員） 各項目とも評価レベルで1や2がないため、どちらの応募団体も著しく適格性を欠くことはないと考えられる。

- (構成員) 施設目的や法人の事業目的の面では特定非営利活動法人 I-DO に、運営面では公益社団法人北九州市シルバー人材センターに適性があると思った。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案の方が新たな利用者を増やすという点では優れていると思うが、実現性が低いように感じた。そのため、管理という面では実績も含め公益社団法人北九州市シルバー人材センターの方が優れているように感じた。ただ、両団体とも広報という点では物足りない。
- (構成員) 公益社団法人北九州市シルバー人材センターの利用者の年齢層を広げるという提案は妥当性がある。特定非営利活動法人 I-DO の大学生と協力するなど、いろいろな仕組みを取り入れている点は評価できる。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案内容については、安全面などで実現性に疑問がある。公益社団法人北九州市シルバー人材センターは現在の延長といった提案ではあったが、数字を基に具体的な提案を行っている点で妥当性があると思う。

○ 構成員は、特定非営利活動法人 I-DO の各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が 4、「人的・財政基盤」が 3、「実績・経験」が 4
- 「有効性」について、「設置目的の達成」が 3、「利用者満足向上」が 3
- 「効率性」について、「指定管理料」が 3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が 3
- 「適正性」について、「管理運営体制」が 3、「平等利用等」が 3
が妥当であると決定した。

○ 構成員は、公益社団法人北九州市シルバー人材センターの各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が 3、「人的・財政基盤」が 4、「実績・経験」が 4
- 「有効性」について、「設置目的の達成」が 4、「利用者満足向上」が 3
- 「効率性」について、「指定管理料」が 3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が 3
- 「適正性」について、「管理運営体制」が 3、「平等利用・安全対策・危機管理体制」が 3
が妥当であると考えた。

○ 事務局が合計得点を発表

○特定非営利活動法人 I-DO 62点

○公益社団法人 北九州市シルバー人材センター 65点

○ 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

特定非営利活動法人 I-DO は法人の事業目的や、新たな利用者を増やすという提案は優れていたが、実現性に欠けていると考えられる。

公益社団法人北九州市シルバー人材センターの提案は、目新しさは感じられなかったが、過去の実績から具体的な提案がなされており、実現性は高いと考えられる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として最も相応しいと判断した。

公益社団法人北九州市シルバー人材センターには、利用促進を図るための提案を確実に実行していただきたい。

○ とりまとめを行って、検討会を終了した。